

令和 7年 第1回 定例会（ 3月） 02月25日－03号

◆4番（内田昇議員） 令和会、議席番号4番、内田 昇でございます。

ちょうど眠くなる時期ですので、皆さん目を覚まして1問ですので、耳を傾けてください。

質疑に入ります。

加須市一般会計予算、「うどん」と「こいのぼり」によるまちおこし事業、こいのぼりに関しては、加須市を代表する伝統的な工芸であると、このように認識しております。うどんとこいのぼりのまち加須、そのこいのぼりの位置づけをどのように考えているのかの疑問でございます。

確かに、5月のジャンボこいのぼりは、全国的にも知られ、来場者もあり、市を代表するイベントとなっておりますが、そもそもそのこいのぼりが加須市の伝統的な産業であったことにより始まったわけで、市民誰もが共有している事実です。その元となっているのは、加須市に脈々と受け継がれてきたこいのぼり職人の魂でございます。残念なことに、その職人さんも昨年の5月、橋本さんの他界によりいなくなってしまった。誠に残念なことです。

しかしながら、そのこいのぼりに魅せられて市外の若者、鯉師会がこいのぼりの制作に取り組んでいます。そういった時代背景を念頭に置いて質疑に入ります。

「うどん」と「こいのぼり」によるまちおこし事業、取組に係る予算額83万円、鯉師会との連携の中に、手描きの伝統を守る活動支援も必要と考えますが、考え方を伺います。

○田中良夫議長 野崎経済部長兼農業委員会事務局長。

（野崎修司経済部長兼農業委員会事務局長 登壇）

◎野崎修司経済部長兼農業委員会事務局長 ご質疑にお答えいたします。

鯉師会につきましては、その活動方針として、こいのぼりのまち加須の地で、こいのぼりの制作を行いたい。そのための技術を高めたいとの考えを伺っておりまして、これまで、市の様々な事業やイベントに際しまして、創作こいのぼりを寄贈いただくなど、非常に献身的な協力をいただいているところで

す。

こうした協力に対し、市では、こいのぼり制作や技術研究を行う場所の提供を行っており、今年度は三俣や騎西コミュニティセンターを会場とする計4回の活動を支援したところです。市といたしましては、今後におきましても鯉師会の皆さんの意向を尊重しながら、より活動しやすい場所の提供や環境づくりを継続的かつ積極的に支援することで、手描きこいのぼりに対する制作意欲や技術レベルの向上を期待するとともに、こうした取組を積み重ねることで、手描きこいのぼりの継承につなげてまいりたいと考えております。

○田中良夫議長 内田議員。

◆4番（内田昇議員） 予想していた答弁でございます。市民としては、鯉師会、よその市の若者が手伝っていただいているということで、非常にうれしく思います。その鯉師会というグループには、現在5人が在籍し、加須のこいのぼりが大好きな若者が集まり、市内で創作活動や展示会、イベントなどを積極的に開催していると、協力していると、今、部長から答弁していただいたとおりでございます。

この鯉師会の方々は、こいのぼり職人、橋本さんがお亡くなりになったのを機に、今まで創作的なこいのぼりを制作していたのですが、伝統的な加須こいのぼりの技法に取り組み始めております。この鯉師会の方々は、市外に住んでおり、加須市でのこいのぼり制作時には、今、紹介があったように、体育館や会議室などを借りていただき、地道な活動を続けております。

以前は、市内のどのこいのぼり屋さんにもこいのぼりを制作する職場があり、多くの職人さんが、それぞれの職場で制作に励んでおりました。私の住む騎西にもこい屋というのがあって、子どもの頃よく見学をしておりました。加須市としては、市の伝統工芸を守り、継承していくために、鯉師会に対し、新たな予算を計上することをぜひとも前向きに検討することを強く要望させていただきます。

この通告書にはございませんが、そういう今の考え方について、簡単で結構ですが、市長のお考えをお聞かせいただけないでしょうか。

○田中良夫議長 内田議員、それは通告外となります。

◆4番（内田昇議員） きちんと通告書に書いておけばよかった。

非常に残念です。今度機会がありましたら、近いし中でお聞きをしたいと思います。考えておいてください。

以上で、質疑を終了いたします。ありがとうございました。